

死者のための末日の業



十二使徒定員会ジョン・ウィッツォー長老（1872 - 1952 年）は、神の息子や娘たちを救う助けというわたしたちに予任されている使命に関して、次のように教えています。

「わたしたちは前世での大会議において全能者と一つの契約を交わした。主は御自身で考え出した計画を提案された。そしてわたしたちはそれを受け入れた。その計画は全人類に向けられたものであったので、わたしたちはその計画の下で救いを得るグループの一員となった。わたしたちはまぎれもなくそのときその場で、自分自身の救い手となるだけでなく、……人類家族全体の救い手となることに合意した。主と協力関係を結んだのである。それ以降、この計画を実行することは御父と救い主の業であるばかりでなく、わたしたちの仕事ともなった。わたしたちの中で最も小さい者、最も卑しい者であろうとも、全員が救いに関する永遠の計画の目的を成し遂げるために全能者と協力関係を結んでいるのである（“The Worth of Souls,” Utah Genealogical and Historical Magazine, 1934 年 10 月号, 189）。」（教義と聖約および教会歴史-福音の教義クラス教師用手引き〔1999 年〕, 173）



十二使徒定員会リチャード・G・スコット長老は、教会の若い人たちが自分たちの先祖のための神殿の業に携わるように勧告している。

「皆さんが神殿の中で行う業は、どんな業であれ、時間の使い方としては賢明です。しかし、皆さん自身の先祖の一人のために身代わりとなって儀式を受けることは、神殿で過ごす時間をはるかに神聖なものとし、いっそう大きな祝福をもたらします。……

若人の皆さんは、自分の生活からサタンの影響を排除するための確かな方法を知りたいと思いませんか。そのためには、先祖を探求することに深く関わり、神殿で受けられる神聖な身代わりの儀式のために彼らの名前を準備し、それから神殿に赴いて、先祖の代理人としてバプテスマと確認の儀式を受けることです。……自分の生活をサタンの影響から守るうえで、これ以上に優れた方法を思いつきません。」（『リアホナ』2012 年 11 月号, 93 - 94）



十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、次の勧告と約束をしている。

「わたしは教会の若い人々に、エリヤの霊について学び、経験するよう勧めます。学び、先祖を探し出し、亡くなった皆さんの親族のために主の宮で身代わりのバプテスマを行う準備をするように勧めます（教義と聖約 124 : 28 - 36 参照）。他の人々が家族歴史を確認するのを助けるように、皆さんに切に勧めます。

皆さんが信仰をもってこの勧めに従うとき、皆さんの心は先祖に向かうでしょう。アブラハム、イサク、ヤコブに交わされた約束が、皆さんの心の中に植えられるでしょう。血統の宣言を伴う祝福師の祝福は、皆さんとこれらの先祖を結びつけ、皆さんにとっていっそう重要なものとなるでしょう。先祖に対する愛と感謝が増すでしょう。救い主についての証と従いたいという気持ちが強くなり、不動のものとなるでしょう。わたしは約束します。皆さんはますます強まるサタンの影響力から守られるでしょう。この聖なる御業に参加し、これを大切にするとき、青少年の時代にも生涯にわたっても守られるでしょう。」（『リアホナ』2011 年 11 月号, 26 - 27）

